

社会教育 だより

10月中に行われた社会教育事業を紹介します。

10月11日(日)
『おおたま生き粋大学』第5回学習会
『おおたま大学院』第3回学習会



～東洋大学文学部 教授 中山尚夫 氏
「江戸庶民の笑いと文学」～

10月3日(土)
わんぱく広場『生物学体験』



～いわき市石炭化石館において、アンモナイトの標本や
コハクのアクセサリ作りを体験してきました。～

平成27年度 大玉村文化のつどい
安達地方地域振興文化事業

桂宮浮城演会

と き：平成27年12月9日(水)
午前の部 11:15～12:00
午後の部 13:25～14:10
ところ：玉井小学校 体育館
※入場無料
問合せ先：玉井小学校(48-3302)

大玉村文化祭

★10月31日(土)～11月10日(火)



“新”村指定文化財紹介 シリーズ3 最終回

「天王下八坂神社の三十六歌仙絵馬」

大玉村玉井字天王下の八坂神社は、古く牛頭天王といったが明治になって八坂神社と改称した。牛頭天王は祇園精舎の守護神で、疫病を防ぐ神としての信仰がある。(『大玉村史』より)

境内には老松が繁り整えられた参道は、地元の信仰心の深さが窺える。戦時中には遠くから千日詣をする人も多かったという。

「三十六歌仙」絵馬は、杉板に描き、額縁をつけ、飾り金具を施し立派に仕上げている。画家は文岳で大原文林の門下であるといわれ、また、詠歌の書は糠澤直之允である。糠澤は本宮出身で幕末に若くして仙台の葉問屋に奉公し、仙台藩の医官で江戸時代後期の狂歌界の巨人といわれた千柳亭綾彦に師事し、国学と和歌を学び、文久2年(1862)本宮に帰郷し、葉種商を営んだ。学者としても名高く、二本松藩の安倍井磐根と親交があった。

絵馬には奉納年の銘はないが、明治中期とみられる。なお、「奉納三十六歌撰寄進連名記」の額1点を伴い発願主は菅野小十郎ほか8名、さらに42名の名前が記されている。絵馬は彩色がよく残り保存状態もよく、村の信仰と文化を知るうえで貴重な史料である。



～小野小町：「わびぬれば身をうき
草の根を絶えて誘ふ水あらば
いなんとぞ思ふ」～